



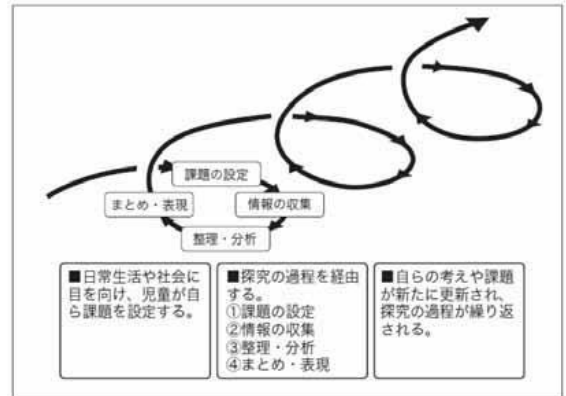
南房総の風し

総合的な学習の時間における学習指導の在り方

総合的な学習の時間のねらいを実現するためには、問題解決的な活動が発展的に繰り返される**探究的な学習**とすること、他者と協同して課題を解決する**協同的な学習**とすることが重要です。

加えて**体験活動を重視**するとともに、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ**言語活動の充実**を図ることが欠かせません。さらには、**各教科等との関連を意識**した学習活動を展開することなどを踏まえて、学習指導を行うことが大切です。

探究的な学習における児童の学習の姿



探究的な学習とは

探究的な学習とは、上図のような問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動のことです。

- | | |
|------------|-----------------------------|
| ① 【課題の設定】 | 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ |
| ② 【情報の収集】 | 必要な情報を取り出したり収集したりする |
| ③ 【整理・分析】 | 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する |
| ④ 【まとめ・表現】 | 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する |

こうした探究の過程は、およその流れのイメージであり、いつも順序よく繰り返されるわけではなく、学習活動のねらいや特性などによっては順序が前後する場合があります。

特に、この中の課題の設定においては、

○人、社会、自然に直接かかわる体験活動を重視すること

○児童・生徒の発達や興味・関心を適切に把握すること

○これまでの児童・生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」、理想と現実の対比などを大切にすること

などに配慮することが大切です。

協同的な学習での姿

総合的な学習の時間においては、特に、他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視します。それは、多様な考えをもつ他者と適切にかかわり合ったり、社会に参画したり貢献したりする資質や能力及び態度の育成につながるからです。



具体的には、次のような場面と児童生徒の姿が想定できます。

- ① 多様な情報を活用して協同的に学ぶ
- ② 異なる視点から考え協同的に学ぶ
- ③ 力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ



体験活動の重視

総合的な学習の時間では、体験活動を適切に位置付けた横断的・総合的な学習や探究的な学習を行う必要があります。

例えば、自然にかかわる体験活動、ボランティア活動など社会とかかわる体験活動、ものづくりや生産、文化や芸術にかかわる体験活動などを行うことが考えられます。

言語活動の充実

思考力・判断力・表現力等の育成を図る上で、体験したことや収集した情報を言語により分析したりまとめたりすることを問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けることが大切です。

言語活動を実施するに当たっては、各教科等で行われている言語活動との関連を図ることが大切です。

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し、伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる



各教科等との関連を意識

各教科等で身に付けた知識や技能を総合的な学習の時間において活用することによって、身に付けた知識や技能は確かになり、一層生きて働くようになります。

一方、総合的な学習の時間での学習活動やその成果が、各教科等の学習活動への意欲を高めたり学習を促進したりします。総合的な学習の時間と各教科等との関連を意識した学習活動を工夫することが大切です。

知識基盤社会やグローバル社会においては、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力などの実社会や実生活で活用できる能力が不可欠なものであることは言うまでもありません。そのためにも総合的な学習の時間を探究的な学習とすることがポイントとなります。

現実社会で求められる力と学校で身に付けていく力が歩み寄り、児童生徒一人一人が幸せな人生を送ることができるようにすることが求められます。